

秀 賞

「ちから」を走りに

新潟県長岡市立西中学校

三年 武 田 実 咲

私は陸上部に所属していて、ハードルを専門としてやっている。この夏私は、全国大会出場という目標を達成することができた。しかしこれは自分一人の力で達成できたことではないと思う。たくさんの人が、私に「ちから」をくれたからこそできたことである。

今シーズン前半、なかなかタイムが出なくて悩んでいた。二年生の時よりも遅いタイムしか出なくて、苦しかった。そんな時、同級生の長距離をしている男子が、「二五〇メートルで五分をきる」という目標を立て、レースに出場した。この目標は県大会出場ラインから三十秒も遅く、周りの人からは簡単だと思われるかもしれない。でも、彼にとって五分をきることはとても難しいことだった。五分をきらず、ずっと悔しい思いをしてきたのだ。このレースで、何が何でも五分をきるという思いで走っていた。その必死さは、応援している私たちにも伝わってきた。強い気持ちで走っているのだと分かった。ラスト一周を迎えた時、四分にさしかかろうとしていて、このペースでは五分をきれないと、応援している誰もが思った。気温も高く、ペースを上げることは不可能だろうと思われた。しかし、彼の強い気持ちは

そんな予想を覆した。ラスト一周、ものすごい勢いでスタートをかけ、死にもぐるいで走り、どんどん前の人を追い越していくのだ。とにかく五分をきりたい。そんな思いが彼の走りに出ていた。それを見て、私は泣いた。五分をきってゴールした彼も泣いていた。私は彼の走りに感動させられた。「ちから」をもらった。そしてこの時に私は思った。「自分の走りで人を感動させたい」と。

こんな出来事があったから二週間後、地区大会があった。「絶対感動させる」と思って臨んだレース。結果は二位だった。ライバルに負けてしまった。感動させられなくて、結果もダメで……。落ち込んだ。

ここからの練習は、全くと言っていいほど気合が入らなかった。自分はダメなんだと思うようになってしまった。ハードルをしても、うまくできない。自分らしさを失った気がした。今シーズンは終わったと思った。

そんな中、私は誕生日を迎えた。この日の昼休み、陸上部のみんなが、メッセージの書かれたコルクボードをプレゼントしてくれた。このプレゼントも私に「ちから」をくれた。心のもった温かいメッセージばかりだった。「全国大会行ってね」という言葉は、ほぼ全員が書いてくれていた。プレッシャーにもなったけど、期待されてるんだと思い、嬉しくなった。放課後の練習では自分らしさを取り戻し、いい動きができた。自分に自信が持てるようになって。みんなのおかげだと思った。

こうして迎えた県大会。ここで標準タイムをきらなければ全国大会には行けないという最後のチャンスの大事な大会。雨が降っていて、向かい風という悪条件。予選では標準タイムから〇・五秒も遅いタイムだった。準決勝でも標準タイムより全然遅いタイム。調子も悪くて、無理だと正直思った。でも、

自校のテントに戻ると温かい声が。「絶対大丈夫だよ!」「実咲ならいける!」と。決勝で絶対に標準タイムをきろうと思うことができた。レース前、すごく緊張していた。心臓が破裂するんじゃないかと思うくらい緊張していた。こんな中でふと思い出したことがある。長距離のあの彼の走りだ。必死に頑張って目標を達成することができれば人を感動させられるんだと思い出した。それと同時に、あの誕生日のプレゼントも頭に浮かんだ。全国大会出場は、もう自分の目標だけじゃなくて、応援してくれる全ての人の目標なんだ。

決勝のレースは、今までにももらった「ちから」で走った。雨にも風にも負けない力強い走りができた。大きな「ちから」だった。レース後、結果が放送され、全国大会出場が決まった時、応援してくれていた全ての人が自分のことのように喜んでくれた。泣いてくれた。自分自身もすごく嬉しかった。

やっと、自分の走りで人を感動させることができたんだ。

テントに帰ると「おめでとう」と言われた。私は「ありがとう」と返した。この「ありがとう」には、ここまでの様々なことに対する感謝の気持ちが含まれている。陸上部のこんなに素敵な仲間がいなければ、目標なんて達成できなかったと思う。本当に本当に全員に感謝をしている。

この県大会で、ほとんどの仲間は引退してしまっただ。もう部活にいない。でも、今までもらった「ちから」は私の中にまだある。残り続けるのだ。この「ちから」を走りにつなげ、全国大会でも活躍したい。自分の活躍で誰かに「ちから」を与えられる、そう信じて。

全国大会出場という目標を達成できたのは、仲間の支えがあったからこそであり、みんなに感謝の気持ちを伝えたいと思い、この作文を書きました。この作文を書き上げ、私は全国大会へ出発しました。みんなの「ちから」で力強い走りができました。感謝の気持ちでいっぱいです!